

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みんなのそら にじ			
○保護者評価実施期間	2026年1月30日 ～ 2026年2月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	18
○従業員評価実施期間	2026年1月30日 ～ 2026年2月10日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2016年2月14日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準を上回る職員配置を行い、一人ひとりに寄り添う手厚い支援体制を客観的に実現しています。講師を招いた音楽や体操、PC教室等の多彩なプログラムが児童の興味を引き出し、豊かな感性と笑顔を育んでいます。顧問医（こころの医療センター）や大学准教授とのケース検討会により、専門性の高い支援の質を担保し、保護者の安心へと繋げています。	年度ごとに作成する「経営指針書」に基づき、全職員でビジョンを共有し、日次・月次の振り返りによるPDCAサイクルを確実に実行しています。構造化された学習空間の確保と徹底した清掃により、児童が落ち着いて過ごせる清潔な環境を維持しています。LINE、SNS、おたよりを駆使した迅速な情報共有により、家庭との密接な連携と組織の透明性向上に注力しています。	虐待防止やアンガーマネジメント等の専門研修を継続受講し、職員の資質向上を通じて管理リスクの低減と支援の質的向上を両立させます。児童の自己決定を促すプログラムを深化させ、将来の自立に不可欠な非認知能力の育成という付加価値を創造します。地域の児童発達支援センターや関係機関とのネットワークを強固にし、地域全体で児童を支える持続可能な体制構築を模索します。 当事業所はこれらの強みを活かし、質の高いサービスを展開しておりますが、さらなる信頼向上のため、以下の課題についても真摯に向き合い改善を進めてまいります。
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	物理的な面積の制約と収納スペースの不足により、活動空間の最大限の確保に限界が生じている点が課題です。労働市場の動向に加え、資格保有者の安定的確保が困難であり、採用における構造的な脆弱性を抱えています。また「安全計画」の全家庭への周知や、一部の内部マニュアルの公表が不十分な状態にあり、説明責任の観点から改善を要します。	限られた建物面積という物理的制約が、多様化する活動ニーズに対する空間活用の柔軟性を阻害しています。現行の給付金制度の構造的な問題が、専門人材の確保や待遇改善を図る上での大きな障壁となっています。情報の優先順位付けと伝達フローの選定に課題があり、安全管理計画等の重要情報の周知プロセスに遅延が生じたものと分析しています。	バーテーションの活用やレイアウトの抜本的な見直しを行い、限られたスペースでの支援環境の最適化を即座に図ります。採用ブランディングの強化と共に、政治・行政への働きかけを通じた制度改革の模索を継続し、人材確保の安定化に努めます。各種マニュアルや安全計画のHP公表を迅速に推進し、法令遵守と透明性の徹底により、保護者との信頼関係をより確固たるものにします。 本報告書で特定した課題に対し、全職員が一致団結して改善アクションを実行し、地域から最も信頼される事業所を目指して邁進する決意です。
2			
3			